

第4回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会議事録

日時：平成26年8月28日（木）

午後2時30分～4時30分

場所：議会全員協議会室

出席委員 ◎木村秀昭委員、○渡邊清治委員、羽鳥孝郎委員、矢吹久美子委員、川上聖嗣委員、加藤馨委員、藤間敬子委員、長岡正委員、石黒俊行委員、小泉道人委員、市川渉委員
（◎：委員長、○：副委員長）

事務局 福祉健康部副部長、高齢福祉課長、高齢福祉課副課長、介護予防担当副課長、高齢福祉課高齢者相談係長、高齢福祉課主事
介護保険課長、介護認定担当副課長、介護給付係長、介護保険課主査

欠席者 市川昭維子委員、長谷川剛委員、市川初江委員、奥村知弘委員

傍聴者 3名

【議事】

議題1 日常生活圏域の設定について（継続議題）

事務局

（説明）

- ・資料3「基本理念と基本方針（案）」の日常生活圏域の設定に基づき説明。

石黒委員

（質問）

- ・日常生活圏域の設定はいつから始めるのか。

事務局

（回答）

- ・第6期計画の圏域なので、平成27年度から開始する。

議題2 第6期計画における基本理念等について

事務局

（説明）

- ・資料3「基本理念と基本方針（案）及び施策の展開（案）」に基づき説明。

矢吹委員

（質問）

- ・新しい総合事業の対応は平成 29 年度からという説明であったが、どのような事業が対象となるのか。

事務局

(回答)

- ・資料 3 の 18 ページに詳しく書いてあるが、訪問サービスの提供、通所サービスの一部について、対象となってくる。

石黒委員

(意見)

- ・重点指針にプロダクティブ・エイジングを位置付けたことは良いことであるが、シルバー人材センターなどに加入している人は、まだ少ないと思う。行政と自治会や老人クラブなどが協働で参加を促したらどうか。健康寿命を高めることに繋がると思う。

事務局

(回答)

- ・6 期計画は福祉から健康へ転換を図る時期だと考えている。支えられる高齢者から支える側へなってもらいたい。しかしながら、シルバー人材センターの会員数は近年 1,000 人を割っている状況であり、会員を増やす、就業の機会を増やしていくことが課題と考えている。

石黒委員

(質問)

- ・アクティブシニア応援ポイント事業の参加者数は。

事務局

(回答)

- ・平成 25 年度の開始から 6 ヶ月間で 135 人が登録している。年度切替を行った平成 26 年度でも 140 人程度の登録は来ている。年間目標は 300 人を目指している。

石黒委員

(意見)

- ・アクティブシニア応援ポイントなどの事業を積極的に活用して、引きこもりがちな高齢者を引っ張り出してほしい。

川上委員

(意見)

- ・5 期計画にある認知症サポーター養成講座は認知症について地域に知ってもらえるので、ぜひ事業計画に取り入れてほしい。グループホーム連絡会では、認知症関連施設が集める情報

交換をしている。体系図をみていると縦の繋がりはしているが、横の繋がりが弱いと思う。民間事業者からすると横の繋がりも大事だと思うので、横の繋がりをもたせてほしい。

事務局

(回答)

- ・認知症サポーター養成講座は支援推進事業に含まれている。認知症の方が生活をしていく上では、大変重要な事業なので、継続して続けていきたい。

加藤委員

(意見)

- ・基本理念の中の「ケアタウンおだわら」だが、本来広い意味をしているが、限定的に見えてしまう。
- ・プロダクティブ・エイジングについては市から受けている事業はあるが、生きがいつくりどまりになっている。就労まで、広げていきたい。例えば、高齢者は必ずしも最低賃金を望んでいるのではないと思う。年金ももらっているので、作業は軽微なものにして、時給500円くらいの対価でも良いのではないか。
- ・19ページの介護予防事業は一般の方から見ると事業として分かりにくいので、わかりやすくしてほしい。

木村委員長

(回答)

- ・地域は地域で様々な事業を行っているが、同じ人は顔を出してくれるが、新たな人が来ない状況である。会場から遠い人は交通などいろいろな問題も出てくる。一人暮らしや高齢者世帯に参加してもらおうとしているが、なかなか出てこない。現場ではどのようにしたら良いかが課題となっている。

小泉委員

(意見)

- ・様々な事業があるので、現場が分かっている自治会にも出来る限り把握してほしい。小田原は在宅介護の人も多いと思うので、在宅を支援するには自治会の協力はぜひとも必要であると感じる。

事務局

(回答)

- ・いくら良い事業を行っても、わからなければ意味がない。どうやったら市民が分かりやすく、地域で利用できるかが大事なので積極的に地域に情報提供をしていきたい。

市川(渉)委員

(意見)

- ・現段階では、具体的な部分が甘いと感じる。現状は、高齢者は多いが、支える人がいない。

この辺を踏まえて考えてほしい。

- ・高齢者世代でも、生産者として見ていかないといけないと思う。平均寿命が延びているので、高齢者の定義を65歳から75歳に変えてもいいのではないか。

藤間委員

(意見)

- ・地域で活動しているが、地域でも参加する人としめない人が出てくる。まとまって活動するのは、難しいのが現状である。

長岡委員

(質問)

- ・高齢者がいきいきと活動できる場づくりを、ぜひ目指してもらいたい。
- ・「介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な運営」の中で、健康寿命の延伸に触れていることは非常に良いことだと思う。できれば、数値目標が示されていれば、さらに良いのだが。
- ・認知症初期集中支援事業とはどのようなものか。
- ・基本理念については、「ケアタウンおだわら」が長寿・福祉社会だけでなく、「ともに生きる活力ある長寿・福祉社会」も含んでいることを明確にするためにも、「ともに生きる活力ある長寿・福祉社会」(ケアタウンおだわら)とカギ括弧の位置を変えたらどうか。

川上委員

(回答)

- ・認知症は初期の症状が出て悪い対応を取らなければ、徘徊が減少したり、良い方向に行く。また、病院に行きたがらないなど、認知症と認めない場合があるので、初期の対応は重要である。

事務局

- ・川上委員の発言のとおり、認知症は初期の対応が重要である。だが、現状は対応しきれていない人もいる。早期発見が出来るよう包括支援センターの職員が地域の窓口として対応しているところである。

渡邊副委員長

- ・初期の認知症の発見は難しい。検査では見つけられないので、生活の中で見つけるしかない。そのため、地域で見守り、発見することが大事である。また、発症してもみんなで話かけるなどしていくことが重要であるので、地域の役割は大きいと感じる。
- ・今は、65歳は高齢者ではないと思う。働く場がないので、高齢者に含まれてしまっているが、まだまだ働きたいと思っている人が多いと思う。

矢吹委員

(意見)

- ・高齢者の多くは薬局にやってくるので、個人的な立場ではあるが、認知症の人などを見つけ

ている。

- ・感想としては、65歳が高齢者というのが、今の社会では問題があるのではないか。そういった意味でも、重点指針に掲げる、「プロダクティブ・エイジングの推進」はこのような間を埋める良いことだと思う。また、年を取ると家族や周りに迷惑をかけたくないと静かに生活している人もいる。このような生活を選んでいる人たちも受け入れるような言葉もほしい。

羽鳥委員

(意見)

- ・社会に出ても働く場がない高齢者はいる。そういった意味でシルバー人材センターは良い役割を果たしている。
- ・高齢者の就労に関しては、ベースに年金をもらっているということを踏まえた方が良いのではないかな。
- ・介護マークは、本当につけてほしい人はつけてくれない。嫌がる人が多いと感じる。

長岡委員

(質問)

- ・独居老人の見守りはどこに位置付いているのか。

事務局

(回答)

- ・施策の目標「高齢者の暮らしを支える取組の充実」の中にある「高齢者の見守り事業」に位置付いている。

石黒委員

(意見)

- ・ボランティアに参加しており、同じ参加者から積極的にやりたいが、やる場所がないとの話を聞く。

木村委員長

(回答)

- ・自治会からもそういう意見はある。地域単位で、いろいろ模索しているが、なかなか難しい。

加藤委員

(意見)

- ・プロダクティブ・エイジングを進めていくには、これからは企業も巻き込んでいかないと難しいと思う。

矢吹委員

(意見)

- ・世代間交流の視点も大切である。

木村委員長

(回答)

- ・現在は、社会福祉協議会が夏祭りなどを実施し、交流を図っている。自治会でも実施したが、財源がない。協賛金を出してもらうなど工夫して実施している。

市川(渉)委員

(質問)

- ・脳卒中は小田原が県内で一番高い。このデータをクリアするような施策になっているのか。

渡邊副委員長

(回答)

- ・地域に出向いて講演などを行っている。この他にもいろいろな活動をしていきたいと思っている。例えば企業とのタイアップなど。アクティブシニア応援ポイント事業についても、もっと企業と連携したほうが良いと思う。行政には、このような話し合いの場を作ってほしい。

川上委員

- ・リタイヤ世代を活用する会社についてテレビで見た。高齢者を活用するには、例えば、仕事をシェアするなど、1人の仕事を2～3人の高齢者で行うといったことをしていた。良い制度だと思う。行政でも官民協働の事業を募集していたが、そういう形で実施すればいいと思う。

議題3 その他について

事務局

- ・次回は10月中を予定。

以上